

全鍍連 顧問 清川 忠

40の手習いという言葉はよく聞くことがありますが、85歳の手習いはあまり聞いたことがない。ちょっとしたことから私が85歳にして雅楽で使われる笙を習うことになったのである。親戚の人より主人の形見として笙の笛をもらってほしいということで私の手元に届いたのである。地元の和田八幡宮の総代会の会長をしている関係上、八幡宮の秋祭りには雅楽の演奏者を他より来ていただいて演奏するのであった。今年はどうするといった話の中で話が花が咲き、私も吹いたことはないが、笙の笛を持っているという話をするとう宮司より笙の先生を探してくるから、会長いっぺんやってみないかということでやる羽目になったのである。しかし85歳になって今日まで楽器を習ったことも、使ったこともない。笙の先生の話を見ると、笙には音階がない。17本の竹管の下に穴があり、穴を両手の指で押さえたり放したり、息を吸ったり吐いたりして音を出して、ドレミファソラシドといった音階がないのでメロディーにしにくい。これはダメだと思った。すると笙の先生がすかさず、大丈夫、大丈夫、皆さん習う人はそう仰る。いっぺん騙されたと思ってやってみてはどうでしょう。そこで挑戦することになった。月に2、3回先生について練習して、私は毎日夜になると1～2時間半年間練習した。する

と八幡宮の宮司と笙の先生が言うには、「今年の秋祭りに雅楽の演奏をするので、出演してほしい。」とのことであった。はっきり言ってまだ早い。せめて来年の正月くらいにはと思っていたが、またここで笙の先生に大丈夫、大丈夫とおだてられ騙されて演奏することになった。笙、箏しょう、篳篥ひちりき、龍笛りゅうてきの10人ほどの楽師さんと共に何とか演奏することができた。お客さんの大勢みえる中、楽師の衣装をつけて楽しい1日であった。2025年の私の挑戦であった。

今年はめっき屋でござる、忠ちゃん奮闘記
第6巻と総集編を書き上げることが2026年の
目標である。毎日楽しい日々を送っている。

笙の樂譜です

笙譜 平調 越えん殿てん樂らく 小曲

早四拍子 拍子八
末二拍子加 後處十二

音類 假名

凡^① 一^② 乙^③ 乙^④ 凡^⑤ 下^⑥ 乙^⑦

一^① 下^② 一^③ 乙^④ 十^⑤ 下^⑥ 乙^⑦ 乙^⑧ 乙^⑨ 返^⑩

頭 重 乙^① 乙^② 下^③ 乙^④ 下^⑤ 乙^⑥ 下^⑦ 乙^⑧ 乙^⑨ 乙^⑩ 返

⑪ 止手 乙八七

一この合竹に
入つから止手